生きているミュージアム NIFREL
PRESS RELEASE

〒565-0826
大阪府吹田市千里万博公園 2-1EXPOCITY 内
株式会社海遊館ニフレル事業部
2026.11.18

報道関係各位

《11 歳のニフレルに、新しい“泳ぎ”がやってくる》

スミツキイシガキフグの幼魚を 11 月 19 日から展示開始

愛らしい表情をすぐ目の前で、ちょこちょこと泳ぐ姿を「影」で体感
海遊館生まれの幼魚です



11 月 19 日より「およぎにふれる」ゾーンにて展示するスミツキイシガキフグ

（株）海遊館が大阪府吹田市「EXPOCITY」で運営する、「生きているミュージアム『NIFREL（ニフレル）』」では、開業 11 周年を迎える 2026 年 11 月 19 日（木）より、館内 1 階「およぎにふれる」ゾーンにて、スミツキイシガキフグの幼魚（約 9cm、1 匹）の展示を開始します。

「およぎにふれる」は、2020 年 2 月にオープンした、生きものの「遊泳の多様性」にふれる展示ゾーンです。美術館でも使われるピンスポット型の照明を用い、あえて色や模様を消すことで、生きものの「影」を壁や床に映し出し、ヒレの動きや体のくねりを浮かび上がらせます。映し出される影と、実際に泳ぐ生きものの姿をあわせて見ることで、ヒレの動きや体の使い方など、それぞれの「およぎ」の特徴を感じていただけます。

今回展示する「スミツキイシガキフグ」は、これまで「およぎにふれる」ゾーンで展示した生きものたちにはない、ちょこちょこと泳ぎ回ったり、時には人が指をさすと、その動きについてくることもある生きものです。ニフレルでは、愛らしい表情や小さな体で泳ぐ姿を間近で観察し、「かわいい」「おもしろい」と直感的に感じていただくとともに、生きものたちの多様性を感じていただきたいと考えています。

別紙にて、スミツキイシガキフグの展示詳細などをお知らせします。

本件に関する取材のお問合わせは、下記までご連絡ください。
（株）海遊館　ニフレル事業部　PR・広報担当　西前、塩谷
TEL:06-6876-2204（平日 9:00～17:30）MAIL: nifrel.pr@nifrel.jp

※本資料の提供先：大阪市政記者クラブ、及び弊社プレスリリース提供希望のメディア関係各社

NIFREL

別紙

【スミツキイシガキフグの展示について】

《展示開始》2026 年 11 月 19 日(木)

《展示場所》1 階「およぎにふれる」ゾーン

《展 示 数》1 匹 (全長:約 9 ㎝)

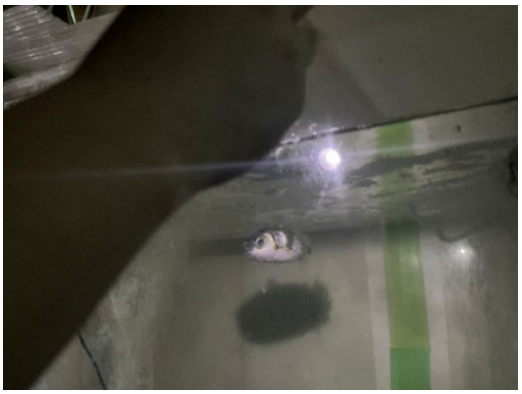
※生きものの状況により、予告なく展示を変更または中止する場合があります。

担当のキュレーターは、今回の展示に向けて、生きものの状態を確認しながら、幼魚が過ごしやすい環境を整えてきました。水を張ると光の屈折で見え方が変わり、また水槽内の石のレイアウトも変えにくくなるため、水を張る前に全体のバランスを確認するとともに、幼魚の大きさに合わせて石の間隔を調整し、泳ぎ抜けやすいアーチ状の空間を設けました。

さらに、横から差し込む光の角度を確認し、「およぎにふれる」ゾーン特有の魚影が映える位置に石を組みました。幼魚が泳ぐ姿とともに、水槽レイアウトの工夫にもご注目ください。



水槽内の石の配置を確認する様子



光の差し込む角度を確認する様子

【スミツキイシガキフグについて】

ニュージーランド近辺の海域などに生息するハリセンボンの仲間で、成長すると最大で全長 50cmになります。体表には短い棘があり、危険を感じると体を膨らませることがあります。

今回展示するのは、海遊館の「クック海峡」水槽内で、岩に産み付けられた卵を飼育員が回収し、バックヤードで 2026 年 5 月にふ化させたものです。ふ化後、毎日換水や給餌、清掃を行い、大切に育てておりました。海遊館の飼育員カウンターにて 2026 年 9 月 5 日から 11 月 3 日までの期間限定で展示していましたが、この度ニフレルにて小さなヒレを懸命に動かしながら泳ぐ愛らしい姿を、「影」とともにご覧いただくこととなりました。

【「およぎにふれる」ゾーンについて】

2020 年 2 月 28 日に誕生した、生きものたちの多様な“泳ぎ”をテーマとしたゾーン。体全体をくねらせたり、波打つようにヒレを動かしたりなどの泳ぐ行動を、「影」を使ったニフレルならではのアーティスティックな空間演出で浮き立たせ、 新たな視点で生きものたちの魅力をお伝えします。



(以 上)

NIFREL